

第6学年西組 家庭科学習指導案

1 題材名 服がよろこぶ、ひと手間を。～衣服の手入れが導く快適生活への挑戦～

2 題材について

- (1) 本題材は、小学校学習指導要領解説家庭編「衣生活」(4)衣服の着用と手入れの「ア(イ)「日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること」及び「日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること」に基づいて設定している。ここでは、衣服を清潔に保つためには、衣服の状態や汚れに応じた適切な手入れが必要であることに気づくとともに、洗濯の仕方等の基礎的な技能を身につけることをねらいとしている。

本題材では、靴下等身近な衣服の汚れを手洗いする活動を行う。よりよい洗い方や干し方について自分で試行錯誤したり、友だちとの対話を通して多様な考えに触れたりすることで、自分なりに考えを深めながら、実感を伴った理解に結びつけ、学びに納得感をもち、日常生活をより良くしようとする気持ちが育つようにしたい。そして、その学びを実際の家庭生活にも結びつけることで、自分の生活を主体的に見つめ直す力へとつなげていくことができる題材である。

- (2) 本学級の児童は、これまでの家庭科の学習に意欲的に取り組んでいる。「生活時間をマネジメント」では、「家族と過ごす時間が少ない」「お手伝いがあまりできていない」等、自分の生活を見直す姿が見られた。また、「できることを増やしてクッキング」では、友達と協力して調理を進め、「家で野菜炒めを作った」「家族に喜んでもらえた」等、学習したことを家庭生活に生かそうとする児童も見られる。

多くの児童は家庭科の学習に前向きに取り組む、衣服の手入れの大切さについて理解しているが、家庭で実践している手入れの内容には偏りがあり、具体的な方法や技能については十分身につけていない様子が見られる。そのため、具体的な方法を学び、実践的な技能を身につけることで、家庭でも継続して実践し、自分や家族の生活をより快適にしようとする姿につながると考えられる。

- (3) 本題材では、日常生活の中で着用している衣服を清潔で快適に保つために必要な手入れの方法について理解し、実践的な技能を身に付けることをねらいとしている。第1次では、事前アンケートや汚れた衣服等を提示し、児童が生活の中から課題意識を高めるようにする。また、ピラミッドチャートを活用することで、洗濯だけでなく、たたみ方や補修等様々な手入れがあることに気づかせ、学習への見通しをもたせる。第2次では、洗濯実習を中心に学習を進める。洗剤の量を変えた実習や友だちの考えとの比較・交流を通して、見方・考え方を働かせながら、汚れの落ち具合だけでなく、すすぎの回数や環境への影響等、多面的に考え、適切な洗濯の仕方を選択できるようにする。また、たたみ方やボタン付け等の実習も取り入れ、衣服を長く大切に使うための技能を身に付けられるようにする。第3次では、家庭で実際に衣服の手入れを行い、実践を振り返る場を設定する。タブレットを活用して工夫や気づきを共有することで、学習したことを生活に生かそうとする態度を育てたい。これらの活動を通して、衣服の手入れに関する実践力を高めるとともに、生活をより快適にするために工夫し、実践していく力を育成したい。

3 題材の目標

- 日常着の手入れが必要であることや洗濯の仕方を理解し、手洗いを中心とした洗濯をすることができる。
- 洗濯の仕方について課題を設定し、実習を通して考え、課題を解決する。
- 洗濯の仕方についての課題の解決に向けて主体的に取り組む、生活を工夫し、実践しようとする。

4 学習指導計画（全5時間 本時 4/5）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点
1	1	手入れの必要性に気づき、学習問題をつくる。	・ 手入れへの意欲を高めるために、実物を提示し、手入れの理由や頻度を考え、ピラミッドチャートにまとめる場を設定する。
		②快適に過ごすには、どのように衣服を手入れしたらよいのだろう。	
2	2 3 4	洗濯実習を行い、適切な洗濯の仕方やたたみ方、ボタンの付け方等を身に付ける。	・ 見方・考え方を働かせ、地球環境について考える力をつけるために、洗濯実習の際には、洗剤の使用量と汚れの落ち具合を比較し、検討する場をもつ。
3	5	実践報告会を行い、生活に生かす。	・ 家庭での実践意欲を高めるために、タブレットを持ち帰り、実践について共有する場をもつ。

5 本時の学習指導案

(1) 目 標

- 汚れにあった衣服の手入れを選択できるようにするために、洗剤の量を変えて手洗いをしたりする実習や全体で話し合ったりする活動を通して、手洗いの仕方について、汚れの落ち具合や環境への配慮等、多角的に考えを深め、洗濯の仕方を選択することができる。

(2) 学習指導過程

	学 習 活 動	予想される児童の反応	教師の支援活動・評価
気づく	1 前時の内容を振り返り、本時の学習問題を作る。	靴下を手洗いするときは、もみ洗い作戦が、一番汚れが落ちたね。 水だけでは限界があるから、今日は洗剤を使って手洗いしてみたいな。 洗剤ってどのくらいの量を使えばいいのかな。 そんなに多少では汚れの落ち具合は変わらないよ。 めやす量を使って、洗濯するのが一番だ。 洗剤は多ければ多いほど、きれいになるはず。 ❓ 洗剤の量をどうやって決めたらよいのかな。	- 前時の学習を想起させるために、側面に既習事項を掲示しておく。 - 見通しをもって学習問題に取り組むために、学習計画を掲示しておき、解決したものに解決シールを貼っていく。 - 自分の意見にこだわりをもち、話し合いを活発に行うために、名前磁石を用い、選んだ方法を可視化する。 - それぞれの実習結果や気づきを共有させるために、ペアで洗濯実習に取り組ませ、互いに、汚れの落ち具合をチェックしたり、すすぎの回数を数えたりして、タブレットWSに記録させる。
	2 学習問題について、洗濯実習を行う。 (1) 個人で (2) 全体で	少量でも水で手洗いした時よりはきれいになるな。 洗剤を使うと、どんどん汚れが落ちるぞ。 やっぱり洗剤の力はすごい。とてもきれいになるぞ。 汚れがたくさん落ちたのはどの方法なのか気になるね。 少量だと、まだ汚れが目立つな。 一番きれいなのは、洗剤をたくさん使ったチームだね。 洗剤の量を増やしても、きれいさには差はないね。 きれいさは4点、すすぎは2回だよ。 きれいさは6点、すすぎは3回だよ。 きれいさは7点、すすぎは4回だよ。	- 汚れの落ち具合を可視化するために、10段階のきれい度チャートを用いて判断させる。 - すすぎのやめ時を判断するために、すすぎ水をペットボトルに入れて振り、泡の様子を確認させる。 - 比較の視点を明確にするために、きれいさ、すすぎの回数のキーワードを提示し、実習結果を数値化して黒板上で可視化するとともに、比較・検討できるようにする。
考える・伝える	3 環境の視点から自分の考えを再構成する。	一番よく落ちたのは、洗剤をたくさん使ったチームだけど、本当にそれでいいのかな？ 洗剤の量を増やすほど、すすぎの回数が増えているね。すすぎの回数が多いということは、洗剤だけではなく、たくさん水を使っているということだね。環境の視点で考えると、洗剤の使いすぎは良くないんじゃないかな。少量の良さは、すすぎも楽だし、環境にいいね。めやす量の良さは、よく落ちることだね。 分かったことを踏まえると、どの方法が自分にとって良いのかな。 一番環境にいいし、もっと時間をかければ、きれいになると思うから、少なめがいいな。 きれいにもなるし、環境にもよいから、洗剤の量はめやす量がいいな。 一番きれいになるし、ゴシゴシ洗えるから、多めがいいな。	- 一番よく落ちたのは、洗剤をたくさん使ったチームだけど、本当にそれでいいのかな？ - 環境への影響に着目させるために、水の使用量や洗剤の量について考えさせる場をもつ。 - 自分に合った方法を選択させるために、実習結果を比較しながら、「持続可能な社会」という視点で再度考えさせる時間を確保する。
	4 本時の学習をまとめ、振り返る。	㊟ 洗剤の量を決めるときは、環境やきれいさ、時間、布のことなどを考えるとよい。 ㊟ - サッカーの練習で靴下がひどく汚れることが多い。その時は、環境のことを考えて、洗剤の量を使いすぎず、めやす量を使い、手洗いしたい。 - 少しの汚れは、洗剤をつけなくても、もみ洗いすれば落ちるから、汚れ具合に応じて、洗剤の量を調節したい。	学び方の習得と実践化のために、学習方法の振り返りと、実践化につなぐ振り返りを振り返りシートに書き、共有する場を設定する。
高める			⑧ 一番よく落ちたのは、洗剤をたくさん使ったチームだけど、本当にそれでいいのかな？ ⑨ 汚れの落ち具合や環境への影響等、さまざまな観点から洗濯の仕方を考え、選択することができる。(タブレットWS・行動観察) ⑩ 汚れの落ち具合、すすぎの回数、環境等のキーワードを想起させ、自分が大切にしたいものを考えさせる。
生かす			



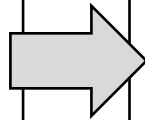
服がよろこぶ、ひと手間を。
～衣服の手入れが導く快適生活への挑戦～

名前（ ）



④手洗い 洗ざい編

手洗い前の写真



手洗い後の写真

自分が選んだ方法

理由

きれい度チャート



すすぎの回数

	少なめ	めやす量	多め
きれいさ			
すすぎの回数			

分かったことを踏まえると、どの方法が自分にとって良いのかな。



服がよろこぶ、ひと手間を。
～衣服の手入れが導く快適生活への挑戦～

名前 ()

👓 ふり返りの眼鏡 👓

- 家庭科の眼鏡で** 「協力すると…」 「健康で考えると…」
「快適さを考えると…」 「安全に過ごすには…」
「受け継がれてきたものは…」 「環境を考えると…」
- 方法の眼鏡で** 「〇〇さんの意見を聞いて」 「実際にやってみると」
「〇〇で調べると」
- 実践の眼鏡で** 「家庭で生かすには…」 「〇〇が家庭で生かせそう」



	快適レベル	判断の理由	👓	ふり返り
/				
/				
/				
/				
/				

学習問題に対する自分のレベルを考え、色をぬろう！

(例)
今日の学習で、〇〇がわかったから。(できるようになったから) 等

どの眼鏡で振り返りをしたのか、番号を書こう。(複数可)

(例)
①快適さを考えると…が大切だと気付いた。
②〇〇さんの意見で…もいいなと思った。
③…することで、自分の家庭でも生かせそう。



もみ洗い



泥よみよ!

洗ざいて
もっときれいに
したいな...

- ① 準備する
 - ・水3Lと
温めた洗ざいをよくかき混ぜて、洗たく液を作る。
- ② 洗う
 - ・1分間もみ洗いをする。
- ③ しぼる
 - ・汚れと洗ざいが残らないようによくしぼる。
- ④ すすぐ
 - ・ペットボトル①の水を入れる。
 - ・ひらひらさせながらすすいで、よくしぼる。
 - ・すすいだ水をペットボトル②に移し取り、10回振る。
 - ・泡の様子を観察し、見本と同じくらいになればやめて、すすぎの回数を記録する。
 - ・同じにならないければ、ペットボトル②、ペットボトル③と続ける。
- ⑤ しぼる
- ⑥ 干す
 - ・(1) 洗った靴をきれいな裏ヤートと比較させて、きれいさを判断し、アンケートに答える。
- ⑦ 片づける
 - ・洗たくに使ったものを片づける。



② 洗ざいの量は どうやって決めるかな。

少なめ

きれいさ 5.5 汚い
すすぎの回数 3 ①

環境

よい

環境によい。

きれいさはよくなるけど...

めやす量

きれいさ 6.2
すすぎの回数 3.6

環境

ふう

見本 山下 藤原 大森
川下 ありた さいけい たいほう
森島 高田 中西
かのん えり ゆい
まゆみ どうき ことみ

きれいにもなるし 環境にも
すすぎの回数も1/2
汚れも落ちる 安定
残りの汚れは洗たくで...

多め

きれいさ 6.3
すすぎの回数 3.9 ②

環境

悪い

③ 洗ざいの量はきれいさ、
環境、汚れ、すすぎの
回数などを考えて
決めるとよい。

ふ

継続可能
協力
生活文化

見方-考え方
話し合う
調べる
やってみる